

経営学史学会創立のご報告

会 員 各 位

すでにご承知のように、経営学史学会創立大会が、さる5月29日・30日の両日、明治大学において開催され、時期的に他の学会と重なっていたにもかかわらず、全国から140名余の出席をいただいて成功裡に終了し、ここにめでたく本学会が創立されました。

創立会員262名という規模は、本学会のスタートとしては申し分ないものであり、五割を越す創立大会出席率は、会員諸氏の本学会への大いなる期待を物語るものと存じ、学会事務局を担当する者として、身のひきしまる思いがいたします。とは言え、何分にも全てはこれからでありますから、各位には、暫くの間ご不便をおかけすることと存じます。ご指導とご協力を切にお願い申し上げます。

会員勧誘のお願い

本学会は若手研究者の育成を重視しております。「院生会員」は大学院博士前期課程生も含まれます。各位には、普通会员はもちろんのこと、院生会員も積極的にご勧誘下さり、将来の学会基盤を質量ともに充実することにご協力をお願い致します。

会費納入のお願い

5月29日の創立総会で承認可決された会則にもとづき、93年度会費の納入をお願い申し上げます。学会の台所事情をご賢察下さり、ご協力をお願いします。

「内規」にありますように、普通会员は年会費6千円ですが、本年4月1日現在で満60歳以上の方、及び満70歳以上の方は、「終身会員」を選択することもできます。その場合は、それぞれ3万円、2万円を納入されれば、以後の会費は免除されます。会費は、同封の郵便振替用紙にて納入下さい。

なお、5月30日にすでに普通会员として納入された方で、終身会員に変更されたい場合は、本年にかぎり認めることが理事会で決定しましたので、終身会費との差額を納入していただければ結構です。以上

1993年7月吉日

経営学史学会事務局
幹事 小笠原 英司

追伸 学会事務局（連絡先）は、明治大学の一部局に間借りしており、専属職員もおりません。緊急・重要な件は、TEL (小笠原自宅) までご連絡下さい。

理事長挨拶

三戸 公

経営学史学会の創立を記念する大会が、1993年5月29日・30日の両日、明治大学駿河台学舎で開催された。わたくしは、そこで初代の理事長に推され、お引受けした。名誉なことである。

初代理事は、準備委員の方々によって発起人会に提案せられ、そこで承認せられ、会員総会で決定をみるという次第によって生まれた。事前に内諾を求められたとき、わたくしとしては、発起人代表の山本安次郎先生そして高田 馨先生を推したが、両先生とも健康上の理由でかなわぬとのことであった。内諾するに当たり、わたくしの考え方の了承を求め、その上でお引受した次第である。

一つは学史をどう考えるか、ということである。ゲーテが言うように、学問の歴史は学問そのものである。学問。学び問う。まねび、そして問う。既存の学の最高到達点をマスターし、そして更に新たに問い前進してゆく。何を学び何を問うか。そしていかに問うか。われわれは常に過去からくる歴史的現実立つ、そして新しい未来が刻々と現在に来る。その現在に立って、問題をもち、学問する。そうでなかったら、生きた学問にはならぬ。歴史学が、過去の事実をただ事実として取り扱うのであれば、それは歴史学とはならないと同様に、経営学史もまた過去の経営学説を過去の学説として取り扱うのであれば、経営学史にはならない。過去の学説が、現代に生きる人間の息吹によって、現代に生きる問題状況の中で生き返らせられて、はじめてそれは学史となる。過去の学説をただそのものとして取り上げ、過去に逃避する安易な道をこぞって進む集団であってはならぬ。

二つ目は、学会のあり方の問題である。そのことについて、わたくしは創立大会懇親会で次のように挨拶した。「わたくしに経営学史学会の初代理事の名誉を与えて下さり、あり難く思います。ここでわたくしに更なる名誉が与えられることを会員皆さんにお願いしたい。それは、この学会が少なくとも経営学関係の多くの学会の中で、最も学問的水準が高い報告がなされ、すぐれた経営学者がこの学会に拠って活躍し、次代の理事長そして以後の歴代理事が、次々に経営学界全体の中で最もすぐれた方が当然のこととして選ばれてゆく、そのような学会として経営学史学会を成長させていただきたい、ということであります」。

会員の皆様、役員の皆様と一緒に学ぶことの楽しい学会として発展するよう、お互いに励まし合ってやってゆこうではありませんか。

1993年7月吉日